

ことになっている。

問 例えば富士宮市では、バスの停留所にネーミングライツを使って金を集め、それを財源としてコミュニティバスを運用している。足りない分は補助金を出しているが、その額は減っているとのことである。交通弱者のために公共交通は必要であり、公共交通は言い方を変えれば福祉である。福祉的な考え方からコミュニティバスは一つの方法としてありか、なしか。

答 方法論としてはあり得るが、現在ある路線は生活路線となつているのが現状であり、これの維持に努めていく。

問 交通空白地帯と言われている市南西部の新沢古墳群を中心とした公園を整備し、その中に集客施設もつくと聞いているが、移動手段がなければ行くことができない。イオンモールにハブのバスターミナルをつくる予定があるならば、その中にコミュニティバスも入れられないのか。富士宮市のように予算的にはいろいろな方法があると思うが、いわゆる赤字部分については、いろいろな意味で総合的に検討していかなければならない事項だと考えている。また、富士宮市の事例だけに限らず、本市の実情に応じた施策を講じていく必要がある。

問 仮にコミュニティバスを走らせる場合には、1社だけに運営委託をするのではなく、入札で業者決定してもいいのではないか。

答 公平、中立、競争性を高めるといふ意味においては、入札制度は1つの方法論であるとは思ふ。集客施設は観光資源の一つになるということも考えており、そこへ至る交通網の整備ということも踏まえて、これから計画を立てて示していきたい。



コミュニティバス

檀原市の住宅

問 本市の市営住宅の経緯と概要について聞きたい。

答 昭和26年の公営住宅法により、国及び地方公共団体が協力して、健康で文化的な生活を営むに足りる住宅を整備し、困窮する低所得者に対して低廉な家賃で賃貸し、国民生活と社会福祉の増進に寄与することを目的として整備されたものである。本市では、昭和32年から供給を開始し、現在のストックは629戸、入居している戸数が465戸、空き家が164戸となっている。

問 同様に改良住宅について聞きたい。

答 昭和45年4月17日付の建設省事務次官通達により、小集落地区改良事業制度要綱に基づいて、歴史的、社会的理由により、生活環境等の安定向上が阻害されている地域における不良住宅地区の環境改善を図るために、小集落改良事業の施行に伴い、その居住する住宅を失うこととなると認められる者に対して小集落

改良住宅を建設した。現在、152戸のストックがあり、入居している戸数が114戸、空き家が38戸となっている。

問 改良住宅は、用途を終えた後の物件はどうするのか。

答 改良住宅の空き家については、余り手を加えずに使用の状態のストックも多くあり、これを有効活用するためにも、地元の方々とも協議を進めて、公募等も含めて活用を図るよう現在検討を進めている。

問 具体的にはどのような検討をしているのか。

答 まだ地元ともいろいろな協議をしていかなければならないため、今は答えられない。

問 8月に広島で発生した土砂災害の被災者を何人が受け入れるという考えはあるのか。

答 国、県等を通じて要請があれば受け入れることはやぶさかではない。

問 国や県からの要請や災害協定がなければ助けに行くことはできないのか。

答 可能か、不可能かと言えば、可能だと思ふ。

問 市営住宅は毎年どのぐらいの件数を公募しているのか。

答 その年により若干違いはあるが、大体5件程度である。

問 市としては、164戸の空き家を負債と捉えているのか。資産と捉えているのか。

答 資産と捉えている。

問 5戸を公募に出すために、どれぐらいの修繕費用等をかけているのか。

答 年間の公営住宅全体の維持管理が2,200万円であり、その住戸によって様々なケースがあるため、一概に幾らと言えないが、1戸につき約100万円前後の費用がかかっている。

問 東日本大震災の際にはどれぐらいの数を受け入れできると表明していたのか。

答 国の要請には、1戸の住宅を確保していると回答した。

問 災害時の受け入れ可能戸数は。

答 空き家であったとしても何らかの形で手を加えなければならぬため、具体的な数字については把握していない。

問 市営住宅の空き家数が146戸。1部屋の家賃が月4万円として年間マイナス7千万円。それにまだ修繕費等の経費に2,200万円、合計約1億円かかるデッドストック(滞留在庫)。このことを踏まえたうえで、広島